宮崎 昌宗 議員

一期目の総括を

坪根町長 ２０年後の未来を見据え

問 約4年間の町政運営の所感や自己評価は。

坪根町長 議員時代を含め20年以上政治にかかわってきたが、比較にできないほど時代が転換期を迎えている。先が読めない時代となったが、歴史を知るものとして、20年後の未来に向けて何を残していくのか、身命を賭して町政運営に臨む覚悟である。4年間で未来に種をまいてきた。その種が成長し、九州一の実になるため育てていきたい。自己評価は志半ばであり、今は採点できない。

問 「九州一輝くまち」として各課が行った具体的な取り組みは。

岡崎総務課長 財政基盤の強化として起債（町の借金）の任意繰り上げを行い、基金残高では全国のトップクラスとなった。職員の資質向上として新たな研修制度を採り入れる。ふるさと納税などで効果が出ている。

永野開発交流推進課長 地域の活性化と新たな観光拠点づくりを目的として、大池公園の開発に取り組んでいる。これまで園路の再整備を行い、来園者が増加している。交流人口の増加が定住促進につながると考えている。

福田企画情報課長 まちづくりの全体的な構想・戦略を策定し、基本的な計画や目標を立て具体的な施策を展開するため、「人口ビジョン」や「まち・ひと・しごと総合戦略」を作成した。今後10年の総合的なまちづくりの指針となる第2次総合計画を作成し、関連がある「コミュニティ計画」の見直しを行うなど、地域コミュニティの活性化を図る計画を進めている。

尾崎税務課長 ふるさと納税の拡充を行った。平成28年度実績で寄附件数6606件、寄附額8880万円。前年対比162倍の実績となった。今年度、税務課ふるさと活性係を新設し、さらなる寄附金増額を図っていきたい。

垂水（勇）住民課長 増加する空き家の適正管理を推進するため、地図情報を活用したデータベースの作成を計画している。老朽化した危険な家屋に対する除去費用の一部を助成する制度を、今年度より創設した。

古原会計管理者 財政の健全化における取り組みとして、新たに基金の運用を国債、地方債、政府保証債で行い、運用益の増額に努めている。27年度は通常の定期管理よりも230万円の増額、28年度は1810万円の増額の見通しとなる。

佐矢野長寿福祉課長 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられることを重点課題と位置づけ、健康寿命を伸ばすことを大きな目標に掲げて取り組んでいる。具体的には、居場所づくりや仲間づくりなどのための介護予防事業。早期発見、早期受診を念頭においた認知症対策事業。そして、移動販売を実施し、買い物弱者対策にも力をいれている。

垂水（英）子ども未来課長 子育て支援として、民間保育所に向けた障がい児保育助成制度の新設や延長保育無料体制を整え、公立保育所を増改築し定員15名増を図った。学童保育を拡充し、利用料を見直し減額している。健康増進施策として、新たに胃がんリスク検診や乳がんエコー検診を加え、がんの早期発見に努めるとともに、きめ細やかな保健指導も行っている。

円入産業振興課長 担い手への農地の集積率は63％となり、振興作物のブロッコリー、スイートコーン、レモンなど、作付拡充している。今後はふるさと納税の返礼品につなげたい。

福本建設課長 生活環境整備として水道拡張と浄化槽設置推進に取り組んでいる。水道計画は、第3期拡張計画に向け、住民の皆様の声を伺い取り組みたい。

村上教務課長 青少年海外体験学習事業の渡航先をタイのバンコクに変更し、タイの名門校であるチュラローンコーン大学付属小学校との交流を始めた。また、タイの児童も上毛町を訪問する相互交流も行った結果、今年度には姉妹校協定の提携を結ぶ予定である。

問 取り組みが足りなかったと思うことは。

町長 声なき声に耳を傾けて、町民のより多くの声を吸い上げていくべきであった。今後、地域を歩き実現していきたい。

問 様々な取り組みを行っているが、情報発信が足りなかったのでは。

岡崎課長 指摘の通り情報発信の部分で弱かったと認識している。今後、十分強めていきたい。

問 持続可能なまちづくりを進めたい、と発言したが真意は。

町長 交流人口や雇用を増やすなど、移住・定住を進めていきたい。少子高齢化による人口減少で、子育て支援から高齢者までの福祉を支える世代の負担が、非常に厳しい。それらを好転させて元気にすることが、持続可能なまちづくりとなると考えている。

三田 敏和 議員

ふるさと納税、町長一任の使途は

坪根町長 子育て支援に充てたい

問 28年度ふるさと納税の評価は。

尾崎税務課長 こんなに寄附金が集まるとは想定外であり、大変評価が高かったと思っている。

問 実績は。

尾崎課長 寄附は27年が約57万円、28年は6606件、8088万円、返礼品の80％強が肉・焼酎である。地元産返礼品は約19％になる。

問 寄附額に対する経費の歳出は。

尾崎課長 5500万円が返礼品に係る経費となる。

問 上毛町住民が他市町村に行ったふるさと納税は。

尾崎課長 83名で399万円。

問 ふるさと納税が好評な他市町村の魅力は。

尾崎課長 分析できていない。

問 寄附額を基金化しているが、何時活用するのか。

尾崎課長 具体的な使途は、来年度に向けて検討する。

問 町長一任が一番多い。寄附者の方々に、このように役立てたと発信する必要があるが。

坪根町長 私の思いでは、子育て支援に充てたい。

問 大池公園開発という項目で寄附を募ることはできないか。

町長 大池公園に開発に充てることも十分に視野に入れながら、まずはふるさと納税の拡充をはかる。

問 町に対する意見は。

尾崎課長 温かい激励のご意見をいただいている。

ミサイル想定の避難訓練は

問 北朝鮮のミサイル発射の感想は。

岡崎総務課長 非常に憂慮すべき脅威と感じている。

問 Jアラートの時間的経過は。

岡崎課長 作動後即、防災行政無線から流れると考えている。

問 町民に対する情報提供は。

岡崎課長 国の情報をもとに弾道ミサイル落下時の行動を町HPに掲載している。

問 吉富町など全国でミサイル落下を想定した避難訓練を実施している。上毛町もすべきでは。

岡崎課長 国、県、吉富町との共同訓練がある。各地の訓練結果検証などを入手し、実施の検討をする。

問 武力攻撃やテロから身を守るためのリーフレットが内閣府から出ているが町の対応は。

岡崎課長 HPに掲載している部分に加え、その部分の啓蒙をさらに進める。

町の街灯、防犯灯のLED化は

問 町の街灯、防犯灯数の実態は。

岡崎課長 現在、総務課所管1761灯の内、電気料負担は町612灯、自治会1149灯ある。他に県道に県負担分があるが把握できていない。

問 自治会の要望については十分対応できていると聞いたが、町として不十分と認識しているところはあるのか。

岡崎課長 自治会間のはざまの幹線道路で、若干危惧している箇所があると認識している。

問 危惧する箇所の対応は。

岡崎課長 区分が難しいこともあるが、町としても第二次総合計画「明るいまちづくり」の部分で十分検討を加え、前向きに考える。

問 LED化している割合は。

岡崎課長 23年度からLED化を進めているが、299灯、約17％である。

問 器具の故障取替頻度というが、加速するべきでは。

岡崎課長 今後、一定のロットで更新すべきと認識している。地域間のはざまを含め、町全体として街灯計画の必要性を認識している。

問 電気代は安いと聞く、比較は。

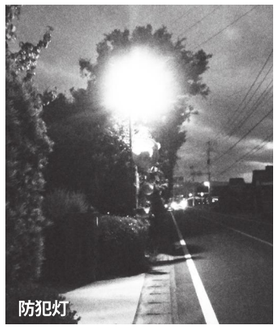
岡崎課長 蛍光灯で月額約255円、LEDで130円。

問 器具は高いが、明るく、長寿命、低料金、全てLEDをすべき、国の補助もある。検討しているか。

岡崎課長 議員のご指摘の補助が環境省にある。本町の事情なども十分照らし合わせて検討する。全体計画を見据え、LED化を加速させる。

問 明るいまちづくりのためにも、試算・検討し、取り組んでいただきたい。

岡崎課長 明るいまちづくりが次のステップの大きな要因となる。加速化を進める。


防犯灯